

道徳学習指導案

指導者 海田町立海田小学校

- 1 日 時 平成29年12月1日(金) 第6校時
- 2 学 年 第1学年1組(男子9名 女子19名 28名)
- 3 場 所 海田小学校 1年1組教室
- 4 主題名 「ともだちとなかよく」内容項目2-(3)友情・信頼
- 5 資料名 およげないりすさん(出典:文部科学省「わたしたちの道徳」)
- 6 ねらい 友達関係を深めるには、友達と仲良くすることが大切であることが分かり、友達と助け合うことよさを考え、ともに生きていこうとする。

7 主題設定の理由

(1) 資料観

本主題は、内容項目2-(3)「友達と仲良くし、助け合う」ことをねらいとし、友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てようとする内容項目である。この内容項目は、来年度から内容項目B[友情・信頼]につながり、中学年では、[友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。]高学年では、[友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと。]と発展していく。本資料は、泳げないことを理由に島へ連れて行ってもらえなかったりすが、最後には、かめの協力を得て、白鳥、あひるとともに島へ行き、みんなで楽しく遊ぶという内容である。泳げないから島へ一緒にいけないのは仕方ないという思いと、島でりすと一緒に遊ぶことの方がよいという思いとの間で葛藤する動物たちの様子は、子どもたちが、自己中心性と友情との間で悩む姿と重なるところがある。自分にとっての利害が優位に立ち、うまく友達とかかわることができないということは、児童の間でもよくある。りすや他の動物たちの気持ちを考えることで、友達の大切さや困っている友達をどうすれば助けられるかを考え、よりよい判断をしていくことについて考えることができる資料である。

(2) 児童観

本学級の児童は、週1回の道徳の時間に、教材の主人公に同化しながら、自分の考えをもって話し合う経験を積んできた。年度当初は、自分の考えを言うことで精一杯だったが、話し合う経験を積むことで、自分の考えを貫くだけでなく、友達の考えを聞いて考える姿も見られるようになってきた。本教材が、1年生になって2回目の内容項目2-(3)「友情・信頼」であり、10月中旬に教材名「二わのことり」で学習している。二わのことりの間で迷うことりの気持ちに同化し、理由を付けて自分ならどうするかを考えた。理由を付けて話すことで、主題に迫っていくことができた。しかし、一方で、考えをもつことができて、理由が説明できなかったり、自分の考えに固執してしまうため、話を聞くだけに終わってしまったりする児童もいた。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の3点に留意したい。まず一つ目は、役割演技を行うことによって、自分ならどうするのか、行動面を問いながらも、その行動に至った理由を話させることである。

行動の理由を問うことで、自分のやりたいことと友達への温かい思いで揺れ動く葛藤を深く考えさせていきたい。二つ目は、課題解決の流れで学習を進めていくことである。展開前段で、本時の問題点を資料から見つけさせ、かめ、あひる、白鳥は島へ渡れるが、りすは、渡れないという点に気づくよう考える時間を設定する。問題点を話した上で、「遊びに行く」と「遊びに行かない」で自分の立場を明確にさせ、話し合わせる。揺れ動く気持ちにも共感しながら、どうすることがよりよい方法かを考えさせていく。授業の終末では、本時で考えたことを振り返りながら、友達と仲良く助け合うことの意味を考えさせたい。三つ目は、日常生活場面を取り入れることである。導入で日常生活場面を取り上げることで、児童の身近な問題点として考えさせていきたい。

8 本単元において育成したい資質・能力

本校で育成したい資質・能力は、①主体性 ②自らへの自信 ③コミュニケーション能力の3つである。そのうち、本資料で重点的に指導したい資質・能力は次の2つである。

| 育成したい資質・能力 | 本単元の学習を通して目指す姿 |
|-------------|---|
| 主体性 | ○自分のこととして問題をとらえ、自分ならどうするのか、それはなぜかを考えている。 |
| コミュニケーション能力 | ○話し合いを行う際、話し手は聞き手を、聞き手は話し手を意識して話し合いをしている。(耳・目・へそ・心を向ける) |

9 本時の展開

| 過程 | 学習活動 | 指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て) | 評価規準 (○) 教科の指導事項 (★) 資質・能力 (評価方法) |
|----|--|---|--|
| 導入 | 1 友情について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大好きなドッジボールをしようと言われたが、仲良しの友達が「苦手で、できないから嫌だ。」と言っている。あなたならどうしますか？</div> | ◇日常的な場面から、友情という言葉について考えさせる。 ・友達と一緒にドッジボールではない遊びをする。 ・友達とはまた今度遊ぶことにして、今日は友達とドッジボールをする。 | |
| | 2 「およげないりすさん」を読み、問題点を見つけてさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">困ったことは何でしょう。</div> | ◇問題点を見つけさせることができるように、板書をしながら教材を読む。 ・りすだけ行けない。 ・みんなで遊べない。 | |

| | | | |
|---|---|--|--|
| 展開 | 3 問題点をもとに自分ならどうするかを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">あなたならどうしますか？それはなぜですか？</div> | ◇ワークシートに立場を明らかにして、自分の考えを理由を付けて書かせる。 「行く」「行かない」「まよう」 ・行きます。みんなと遊びたいから。 ・行きません。りすさんがかわいそうだから。 ・まよいます。どちらにしても、困る人が出るから。 | ★ 自分ならどうするかを理由を付けて書こうとしている。【主体性】(ワークシート) |
| | 4 考えた意見を基に話し合う。 | ◇役割演技をしながら、行動とその理由を問い、板書に児童が話した理由を残していく。 | |
| ・私は、「行きません。」理由は、行けないりすさんがかわいそうだからです。 ・ぼくは、「行きます。」理由は、行かなかったら、後でやっぱり行けばよかったと思うからです。 ・私は、迷っています。行きたいけど、りすさんがいけないと行っても楽しくないような気がするからです。 ・私も同じです。でも、みんなで一緒に遊べたらいいなと思います。 ・みんなが楽しめるためには、海をわたる方法を考えればよいと思います。 | | | |
| | 5 最善策を話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">どの方法がよりよいでしょうか。</div> | ◇りすの気持ちを考えた上で、いろいろな解決方法を考え、最もよい方法を話し合う。 | |
| まとめ | 6 学習のまとめ・振り返り 目指す児童の姿 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">ともだちとなかよくするためには、みんながえがおになるほうほうをかんがえればよいとおもいます。じぶんができることはなにかをかんがえたいです。</div> | ◇友達となかよくするにはどうすればよいか、今日の学習をふりかえりながら書くように伝える。 | ○友達と助け合うことのよさを考えることができる。(ワークシート) |

10 板書計画

ともだちとなかよくするってどういうこと？

いかない

なやむ

いく

およげないりすさん

みんなが笑顔の絵

りすもみんなでしまへいく

てっだう

・りすがかわいそう。
・りすとあそんであげる。

・りすがおこるかも。
・みんないくけど、りすにわるい。

・たのしそう
・みんないくから
・あとでりすとあそべば

島の絵

困っているりすの絵